

栃木県教育委員会による調査

昭和 63 年、「將軍道（＝東山道）」の一部である厩久保遺跡が塩那広域農道となることとなり、栃木県教育委員会により発掘調査が実施されました。

調査は、低地部、丘陵裾部、丘陵頂部にかけてトレンチ調査（※4）を行った結果、低地の部分では、砂利質の火山灰（小川スコリア）やローム等を混ぜて盛土とし、硬くたたきしめて路面としていたことが分かりました。丘陵裾部では、地山の黒色土を削平し、ロームや砂利質の火山灰等を混ぜて盛土し、路面としていたことが分かりました。路面は大きく 4 期に区分でき、路面の構造と出土品及び時代をご紹介します。

1 期は丘陵裾部や丘陵頂部では側溝をもち、路面幅が 6 m 以上あるもの。側溝の底面からは、土師器の鉢や甕の破片が出土し、概ね 8 世紀代と考えられています。

2 期の路面は、丘陵裾部や丘陵頂部では側溝をもち、路面幅が 6 m 程度あるもの。側溝からは須恵器杯が出土し、9 世紀前半と考えられています。

3 期の路面では、側溝が確認されず硬化面がある部分で路面幅が約 6 m 程度あるもの。この路面の頂上からは須恵器杯が出土し、9 世紀後半と考えられています。

4 期の路面は側溝が確認されず、硬化面がある部分で路面幅が約 5 m 程度あるもの。ここからは、平安時代以降の土器の破片が出土していることから、平安時代以降の路面と考えられています。

※4 トレンチ調査とは、区画を決めて掘り進めながら調査をすることです。